

不安と期待いただき

施設へ移り来ぬ

万葉集全巻持ちて

早ばやと飾りし

和紙びな小さくも

部屋に春の気配ただよふ

思ひ出のこもる

端ぎれの十二枚はぎ合わせ

一つの手提げのなりぬ

白百合の花束抱へし

少女降りバスは

しばらく残りが運ぶ

五年ぶり買ひたる新刊三冊は

貧しき書棚に

ひときは眩し